

歩きやすい歩道整備を

新政会
神吉 史久



平郡理事 **A** 優先順位を考え検討する



▲切り下げ部分が連続し歩きにくい歩道

問 歩道の多くはマウンドアップ型で、車の出入り口など切り下げられた箇所が多くあり、障がい者や高齢者にとって通行しにくい状態になっている。都市計画マスタープランで、目指すべき都市像としてウォーク&サイクル都市の形成を掲げている本町にとってこのような歩道の解消は必要不可欠で、セミフラット化し、歩きやすい歩道を積極的に整備すべきでは。現在ではセミフラット

答 歩道の多くはマウンドアップ型で、車の出入り口など切り下げられた箇所が多くあり、障がい者や高齢者にとって通行しにくい状態になっている。都市計画マスタープランで、目指すべき都市像としてウォーク&サイクル都市の形成を掲げている本町にとってこのような歩道の解消は必要不可欠で、セミフラット化し、歩きやすい歩道を積極的に整備すべきでは。現在ではセミフラット

問 災害時の避難所となる学校やコミセンでは、トイレや掃除など飲料用以外にも多くの生活用水が必要となる。今年度から井戸整備に対する県の補助制度も始まった。この制度を活用しながら井戸を整備すべきでは。
答 現状もプール活用などの対策をとっている。井戸整備は、設置場所や維持管理に課題があるが、多くの選択肢があることが望ましいとの観点から、調査研究を進める。

水田川拡幅工事の進展は

新政会
藤田 博



平郡理事 **A** 国、県に引き続き要望する



▲拡幅工事が待たれる新幹線下の水田川

問 水田川は、大雨になると急激に水位が上昇して、数多くの浸水被害をもたらしており、早期拡幅改修は周辺に暮らす住民の悲願である。現在、山陽電鉄や新幹線高架下を含む上流部の拡幅工事は進展が見られない。水田川上流部の拡幅工事の現状は。
答 加古川土木事務所に確認したところ、上流部の山陽電鉄・JR山陽新幹線部分の第2工区とその上流部の第3工区は、山陽電鉄やJR西日本と

問 水田川は、大雨になると急激に水位が上昇して、数多くの浸水被害をもたらしており、早期拡幅改修は周辺に暮らす住民の悲願である。現在、山陽電鉄や新幹線高架下を含む上流部の拡幅工事は進展が見られない。水田川上流部の拡幅工事の現状は。
答 加古川土木事務所に確認したところ、上流部の山陽電鉄・JR山陽新幹線部分の第2工区とその上流部の第3工区は、山陽電鉄やJR西日本と

問 水田川は、大雨になると急激に水位が上昇して、数多くの浸水被害をもたらしており、早期拡幅改修は周辺に暮らす住民の悲願である。現在、山陽電鉄や新幹線高架下を含む上流部の拡幅工事は進展が見られない。水田川上流部の拡幅工事の現状は。
答 加古川土木事務所に確認したところ、上流部の山陽電鉄・JR山陽新幹線部分の第2工区とその上流部の第3工区は、山陽電鉄やJR西日本と

全校園のトイレ洋式化は

公明党
大瀧 金三



教育長 **A** 校舎改修に合わせて実施



▲蓮池小学校の和式トイレ

問 一般家庭では、洋式トイレしか使ったことのない子どもたちがほとんどである。製薬会社の調査結果から、学校の和式トイレでは排便がしづらいと答えた小学生が約半数いる。一部で洋式化は進んでいるが、災害時の避難拠点の面からも洋式化が必要では。
答 校舎の大規模改修に合わせてトイレも順次改修していく。子どもたちの意見も取り入れており、アンケートの結果では、和式も残してほしいとの

問 一般家庭では、洋式トイレしか使ったことのない子どもたちがほとんどである。製薬会社の調査結果から、学校の和式トイレでは排便がしづらいと答えた小学生が約半数いる。一部で洋式化は進んでいるが、災害時の避難拠点の面からも洋式化が必要では。
答 校舎の大規模改修に合わせてトイレも順次改修していく。子どもたちの意見も取り入れており、アンケートの結果では、和式も残してほしいとの

認知症初期集中支援チームは

新政会
河野 照代



福田理事 **A** 医師会との調整を実施



▲認知症予防のために健康づくりを(秋ヶ池運動公園)

問 国が認知症高齢者を自宅で支える家族の支援策とし、医師・看護師らが訪問し、適時適切なサービスを提供する認知症初期集中支援チーム事業を拡大し平成30年度末には全市町村に設置を目指す中、町は3年間どう準備を整えるのか。
答 職員が認知症初期集中支援チーム研修を受けており、医師会とも調整し、年度内にチームを設置する予定である。
問 地域住民間の関係性が希薄化する中で、独り暮らし高齢者が安心して暮らすためには、緊急時24時間対応を行える地域での見守り体制の強化を図る仕組みが必要では。
答 支援を必要とする人の見守りや、住民の相談に対応する体制整備に努めている。

問 国が認知症高齢者を自宅で支える家族の支援策とし、医師・看護師らが訪問し、適時適切なサービスを提供する認知症初期集中支援チーム事業を拡大し平成30年度末には全市町村に設置を目指す中、町は3年間どう準備を整えるのか。
答 職員が認知症初期集中支援チーム研修を受けており、医師会とも調整し、年度内にチームを設置する予定である。
問 地域住民間の関係性が希薄化する中で、独り暮らし高齢者が安心して暮らすためには、緊急時24時間対応を行える地域での見守り体制の強化を図る仕組みが必要では。
答 支援を必要とする人の見守りや、住民の相談に対応する体制整備に努めている。

問 国が認知症高齢者を自宅で支える家族の支援策とし、医師・看護師らが訪問し、適時適切なサービスを提供する認知症初期集中支援チーム事業を拡大し平成30年度末には全市町村に設置を目指す中、町は3年間どう準備を整えるのか。
答 職員が認知症初期集中支援チーム研修を受けており、医師会とも調整し、年度内にチームを設置する予定である。
問 地域住民間の関係性が希薄化する中で、独り暮らし高齢者が安心して暮らすためには、緊急時24時間対応を行える地域での見守り体制の強化を図る仕組みが必要では。
答 支援を必要とする人の見守りや、住民の相談に対応する体制整備に努めている。